

## 第20回大学等環境安全協議会技術分科会に出席して

坂下 英樹

技術センター（工学部等部門）

### 1. はじめに

大学等における環境安全管理の方法，化学物質等の管理の方法，及び有害な廃棄物の処理技術に関する研修と，それらに関する諸情報の交換を行うこと。

### 2. 期間・場所

期間：平成16年7月22日～23日

場所：金沢エクセルホテル東急

### 3. 参加者等

環境安全管理，化学物質等の管理，廃棄物の処理に携わる大学等の教職員，及び関係企業から，計約160名。広島大学からは他に中央廃液処理施設（現環境安全センター）の教員2名。

### 4. 研修内容

○報告「法人化後の実際 管理・教育がどう進んでいるか」：各大学からの対応状況の報告。

○「廃棄物処理外部委託のための技術ガイドライン」の活用方法について：適切な業者選定に役立てるとともに，排出者責任についての教育，処理業者の情報提供能力及び技術力の向上に活用。

○報告「大学等のPRTTR法への対応ならびに労安法への対応」：東工大の対応状況と有機溶剤中毒防止規則の除外申請について。

○報告「公立大学等の廃棄物処理実態調査と環境安全推進」：公立大学等の廃棄物処理・環境保全担当者の連絡網の整備と，現状について。

○報告「富山大学薬品管理支援システム“TULIP”」薬品管理システムの構築とオープンソース化について。

○講演「キャンパス内の里山の保全と活用」：金沢大学の金沢市郊外へのキャンパス移転における自然環境保全と環境教育への活用について。

○ディスカッション「国立大学法人化後の諸問題についての情報交換」：環境部門の変革や安全衛生への対応などについて。

### 5. まとめと感想

労働安全衛生法への対応がとても進んでいる大学から，そうではない大学まで様々でした。組織が整っても意識が変わっていないという意見があり，考えさせられました。

## 有機溶剤作業主任者技能講習を受講して

坂下 英樹

技術センター（工学部等部門）

### 1. はじめに

有機溶剤とは，呼吸器や皮膚から体内に吸収されて中枢神経等へ作用し，急性中毒や慢性中毒等の健康障害を発生させるおそれのある化学物質として，労働安全衛生法施行令に定められている化学物質です（クロロホルム，アセトン，メタノール等）。これらを製造し，又は取扱う作業を行う場合，有機溶剤作業主任者を選任しなければなりません（試験研究のため取扱う作業を除く）。環境安全センター（旧中央廃液処理施設）では有機溶剤を含む廃液の処理を行っており，資格が必要なため受講しました。

### 2. 期間・場所

期間：平成16年8月30日～31日

場所：広島市林業ビル

### 3. 参加者等

企業などから100名程度（広島県では16年度14回実施）

### 4. 研修内容

○有機溶剤による健康障害およびその予防措置に関する知識：有機溶剤による健康障害の病理症状，予防方法，および応急措置について。

○作業環境の改善方法に関する知識：有機溶剤の性質，有機溶剤の製造および取扱いに係る器具その他の設備の管理，作業環境の評価お

よび改善の方法について。

- 労働衛生保護具に関する知識：有機溶剤の製造または取扱いに際して用いられる保護具の種類、性能、使用方法および管理について。
- 関係法令に関する知識：労働安全衛生法、労働安全衛生法施行令、労働安全衛生規則の中から有機溶剤作業主任者として知っておかなければならない安全衛生管理体制、有害物管理、教育、健康管理等の関係事項および有機溶剤中毒予防規則について。

#### 5. まとめと感想

労働安全衛生管理体制が改まったばかりの本大学において、新しく作業主任者としての職務を遂行するためには、この講習の受講だけでは十分でなく、かなりの準備が必要であると感じました。

### 第16回情報処理センター等担当者技術研究会に出席して

勇木 義則

技術センター（情報メディア教育研究センター部門）

#### 1. はじめに

本研究会は、国公立大学情報処理センター等の技術担当職員が最新技術やシステムの管理運用について研究発表、意見交換および情報収集の場を提供することを目的としている。

#### 2. 期間・場所

期間：平成16年9月9日～10日

場所：宇都宮大学工学部 総合研究棟212番教室

#### 3. 参加者

山形、福島、会津、茨城、埼玉、宇都宮、千葉、東京海洋、お茶の水、電気通信、一橋、横浜国立、山梨、信州、岐阜、奈良女子、広島、鹿児島、琉球大学から合計32名

#### 4. 研修内容

ユーザー認証の様々な手法、システムリプレースの考え方、無線LANの運用、Webを活用した分

散キャンパスでの業務連携、ICカードの活用など技術面、運用面に関する幅広い内容について。

#### 5. まとめと感想

「広島大学情報メディア教育研究センターにおける情報サービス体制の現状と課題」というテーマで、全学IT化の流れの中で、独法化後IMCがどう位置づけられ、どのように組織改組されたかについて、またサービス強化が期待される中、教員との連携をキーワードに「責任あるサービス体制の確立」を目指した試みについて紹介した。発表および懇親会において情報収集ができ有意義であった。

### 平成16年度機器・分析技術研究会に参加して

藤高 仁・石飛 義明・藤原 雅志

技術センター（理学部等部門）

#### 1. はじめに

技術職員の技術力向上を目的とした研究会の一つとして機器・分析技術研究会が開催されている。その機器・分析技術研究会を平成18年度広島大学にて開催する予定であるため佐賀大学にて開催された平成16年度機器・分析技術研究会に個人の技術・知識の習得と共に視察を兼ね参加した。

#### 2. 期間・場所

期間：平成16年9月16日～17日

場所：佐賀大学

#### 3. 参加者等

全国の大学共同利用機関法人、国立大学法人及び国立高等専門学校機構に所属する技術職員

#### 4. 研修内容

○分析技術、装置開発・改良、施設・設備管理技術、教育研究補助、環境・福祉機器の開発、地域貢献、施設・組織紹介等の発表及び聴講すると共に情報交換を行う。

○地域代表者会議（運営会議）に出席

○平成18年度機器・分析技術研究会を広島大学にて開催するにあたっての情報収集

## 5. まとめ・感想

さまざまな発表を聴講することにより個人のスキルアップを図ると共に研究会運用を視察し平成18年広島大学にて開催される予定である機器・分析技術研究会への有益な情報を得た。今後の業務に大変参考となる研究会であった。

## 平成16年度臨床薬理学講習会に出席して

池田 佳代

技術センター（医学部等部門）

### 1. はじめに

臨床薬理学講習会は、毎年臨床薬理学会が年会日程に引き続いて行っており、臨床薬理学会の認定医・認定薬剤師・認定CRC（治験コーディネーター）の受験資格として受講が必要とされている講習会である。今回は「臨床試験実施のための臨床薬理学の基礎知識」と題し、午前2テーマ、午後3テーマの講習が行われた。

### 2. 期間・場所

期間：平成16年9月19日

場所：グランシップ（静岡市）

### 3. 参加者等

医師、薬剤師、CRC（治験コーディネーター）など250名程度。

### 4. 研修内容

- 1) 薬物動態理論の治療への応用：薬物を投与した時の血中の薬物濃度の速度論的解析について。腎障害があつて腎排泄が障害された時・肝障害があつて肝代謝が障害された時の薬物血中濃度について。
- 2) 臨床試験のための生物統計学：データ解析及び研究計画への統計学の関与について。
- 3) ゲノム解析と薬効評価：薬物の効き具合の個人差に影響している遺伝子について。薬物代謝酵素の遺伝子変異などさまざまな実例を示しての講習。
- 4) 臨床試験におけるIRBの役割：治験審査委員会、倫理委員会の設立の歴史的背景、英

国・米国での実情、日本での問題点について。

- 5) 医師主導の臨床試験実施上の問題点：日本における医師主導の臨床試験について。PROBE デザインの大規模臨床試験について。講師の先生の携わっておられる試験の紹介も交えながらの講習。

## 5. まとめと感想

薬剤師の業務のひとつとして、臨床試験への関与が期待されてきている。そのため、研究・教育支援業務を行うに当たって臨床試験に関する知識が必要となってきた。今回の臨床試験に関わるIRB（治験審査委員会）の機能についての講習と医師主導の臨床試験実施上の問題点についての講習は、私にとって理解の不足している分野であり有益であった。今回の講習で得られた知識をもとに、さらに知識を得、理解を深めるよう研鑽し、今後の業務に生かしていこうと思う。

## 第27回日本神経科学大会・第47回日本神経化学学会大会合同大会（Neuro2004）に参加して

柿村 順一

技術センター（医学部等部門）

### 1. はじめに

本学会は日本神経科学会と日本神経化学会の合同大会として開催された。両学会の特徴を生かしつつ、分子・ナノ、から行動・病気の機序、治療まで幅広い領域の研究発表の場として設けられたものである。

筆者は病態探求医科学講座神経生理学（緒方研究室）で日常業務（研究補助）を行っている。本学会には、得られた知見の発表および新たな知識の獲得を目的とし、参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成16年9月21日～23日

場所：大阪国際会議場（大阪市北区）

### 3. 参加者

神経科学・神経化学領域研究者、学生等

#### 4. 研修内容

本学会ではプレナリーレクチャー（3題）、特別講演（3題）、シンポジウム（36セッション）、一般演題（1290題）が設けられた。筆者は神経変性疾患、神経保護、疼痛メカニズム、痛覚に関するセッションを聴講した。また、一般演題にエントリーし、ポスター発表およびディスカッションを行った。

#### 5. まとめと感想

現在の研究テーマである痛みにおける情報交換のみならず、他の分野の知見も得られた。手法やテーマが近い他大学の研究者との直接の対話の機会も得られ、今後の業務の参考とすることができ、非常に有意義な学会であった。

#### 平成16年度日本岩石鉱物特殊技術研究会に出席して

石佐古 早実

技術センター（理学部等部門）

##### 1. はじめに

日本岩石鉱物特殊技術研究会は、岩石・鉱物・化石・金属・非金属・構造地質・耐火物等の薄片・研磨片の製作および試料に伴う試料調整に関与する専門技術者で組織され、技術者相互の技術開発と知識の高揚に努め、広く地球科学とその関連領域の研究等に寄与することを目的とし、毎年各会員の所属する大学・研究所等の持ち回りで開催している。

また、平成18年度広島大学での研究会開催のため視察も兼ねて出席した。

##### 2. 期間・場所

期間：平成16年9月28日～29日

場所：東北大学大学院理学研究科 数理科学記念館

##### 3. 参加者等

広島大学からは 石佐古 早実  
大学・研究所など 計25名

##### 4. 研究会内容

講演：「東北本州弧の地殻・マントル構造断面と大規模カルデラ群」東北大学大学院理学研究科地球惑星物質科学科 吉田武義 教授

総会：研究会の運営や諸問題等について議論

技術発表：7件の発表（内容は、2年に1度出版される冊子『地殻』として公表）および質疑応答

総合討論：技術討論・意見交換等

##### 5. まとめと感想

講演を拝聴し、技術者の製作する試料の重要性を感じた。各人の技術発表やそれに関する質疑・応答、また、技術者相互の技術討論や意見・情報交換により製作技術に関する疑問点等はかなり解消された。この様な専門の研究会・研修会（全国規模）での情報交換等が、技術者の減少や技術の高度化に伴って今後より一層重要なものとなるであろう。

また、これまで開催してこられた各機関の方々より有効な情報を頂くことができた。

#### 研削といし取替業務等特別教育講習会に出席して

谷口 弘・下岡 丈次

技術センター（先端物質科学研究科部門）

##### 1. 目的

職務遂行に必要な資格を取得するため。

##### 2. 期間・場所

期間：平成16年9月28日～29日

場所：広島北労働基準監督署

##### 3. 講習内容

研削盤の種類、取扱い要領、といしの種類と選択、安全度、といしの取付け具、保護具、といしの取付けと試運転、災害事例、関係法令の講習を受けた。

##### 4. 感想

日常使っているグラインダー、サンダーの危険は感じていたが、管理者として高速回転体であるグラインダーの危険を再認識した。また、といし

との隙間等の管理、使用者への取扱い指導の必要性を認識した。

参考 労働安全衛生法第59条第3項による特別教育

## 平成16年CC委員会およびICCC10オープンセミナーに出席して

川北 龍司

技術センター（先端物質科学研究科部門）

### 1. はじめに

日本微生物資源学会に参加することにより、本学の微生物遺伝資源保存室（略号：HUT）が系統保存機関（カルチャーコレクション、以下略してCCとする）としての機能を維持するための最新の情報を収集および交換し、職務をよりよく遂行するために役立つ。また、他機関の担当者との交流を深め、情報を得ることができる唯一の機会でもある。

### 2. 期間・場所

期間：平成16年10月10日

場所：つくば国際会議場（エポカルつくば）

### 3. 参加者等

各カルチャーコレクションの責任者もしくは代表（CC委員会）

各国のカルチャーコレクション関連の研究者（ICCC10オープンセミナー）

### 4. 研修内容

CC委員会討議内容

- 1) 各機関会員における事業報告
- 2) 機関会員の会費負担について
- 3) 大学法人化にあたって情報の取り扱いの変化について
- 4) OECDによるBiological Resource Center (BRC)プロジェクトについて
- 5) 国際微生物学連合大会(IUMS 2011年 札幌)に向けて

オープンセミナー研修内容

- 1) 我が国で伝統的に利用されている生物資源

である麹菌の有用性と安全性、ゲノム、工業利用の研究について

- 2) 米国バイオテクノロジーの父、高峰譲吉の生涯とその功績について

### 5. まとめと感想

国内の主要なカルチャーコレクションの多くは関東地方にあり、本学ではその動向を知ることがなかなか難しいので、たいへん有意義であったと思う。また、機関会員の会費については、当機関の財政事情について意見を出すことにより、額を考慮する上での参考にしていただけたと感じた。また、オープンセミナーでは、当機関は醸造関係の菌株を多数保有していることもあり、醸造菌株である麹菌についての理解を深めることができ、たいへん有意義であった。また高峰譲吉については米国におけるバイオテクノロジーの基礎を築いたのが日本人であったということの驚き、その偉大なる功績に大変感心した反面、あまり知名度が高くないのが不思議に思えた。

## 特定化学物質等作業主任者技能講習を受講して

坂下 英樹

技術センター（工学部等部門）

### 1. はじめに

特定化学物質とは、がん、皮膚炎、神経障害その他の健康障害を発生させるおそれがある化学物質として、労働安全衛生法施行令に定められている化学物質です（ベンゼン、エチレンオキシド等）。これらを製造し、又は取扱う作業を行う場合、特定化学物質等作業主任者を選任しなければなりません（試験研究のため取扱う作業を除く）。環境安全センター（旧中央廃液処理施設）では特定化学物質を含む廃液の処理を行っており、資格が必要なため受講しました。

### 2. 期間・場所

期間：平成16年10月12日～13日

場所：広島市林業ビル

### 3. 参加者等

企業などから100名程度（広島県では16年度13回実施）

#### 4. 研修内容

- 特定化学物質等による障害とその予防措置に関する知識：特定化学物質等による健康障害の病理症状，予防方法，および応急措置について。
- 作業環境の改善方法に関する知識：特定化学物質等の性質，特定化学物質等の製造および取扱いに係る器具その他の設備の管理，作業環境の評価および改善の方法について。
- 労働衛生保護具に関する知識：特定化学物質の製造または取扱いに際して用いられる保護具の種類，性能，使用方法および管理について。
- 関係法令に関する知識：労働安全衛生法，労働安全衛生法施行令，労働安全衛生規則の中から特定化学物質等作業主任者として知っておかなければならない安全衛生管理体制，有害物管理，教育，健康管理等の関係事項および特定化学物質等障害予防規則について。

#### 5. まとめと感想

労働安全衛生管理体制が改まったばかりの本大学において，新しく作業主任者としての職務を遂行するためには，この講習の受講だけでは十分でなく，かなりの準備が必要であると感じました。

### 平成16年度第31回国立大学法人臨海臨湖実験所センター技術職員研修会議に出席して

山口 信雄

技術センター（理学部等部門）

#### 1. はじめに

国立大学法人臨海臨湖実験所センターに所属する技術職員は臨海実験所所長会議及び所属する学部の方々のご理解とご支援により，毎年秋に各実験所持ち回りで研修会議を開催しております。我々の実験所等は本学より離れた所に設置されているために，情報の入手も遅れがちであり，

また，技術職員の定員が一名の所も多く，一人職場故の職務上の悩みや，実験・研究用動物の採集に関する情報を入手しにくい等の不都合を抱えております。そこで同じ業務を遂行している日本各地の臨海臨湖実験所センターの技術職員が集まり，情報交換や業績発表を行い，各地での臨海実験所運営・研究教育活動に役立てることを目的としております。

#### 2. 期間・場所

期間：平成16年10月13日～15日

場所：金沢大学自然計測応用研究センター生物多様性部門 臨海実験施設（能登）

#### 3. 参加者等

広島大学からは山口信雄（向島臨海）1名。他15名とOB5名，オブザーバー5名が参加。

#### 4. 研修内容

各実験所における近況報告や意見交換，並びに実験内容についての質疑応答（内容は機関誌『臨海・臨湖 No. 21』と添付書類参考）。実験生物の生息地に関する情報交換と，採集方法についての検討。臨海臨湖実験所センター所長会議議長との懇談により，今後の臨海実験所の運営と存在意義等について討論。機関誌「臨海・臨湖 No. 21」についても報告。

#### 5. まとめと感想

各地の実験所で行っているナメクジウオ採集について，経験者ならではのアドバイスを頂いた。今後の当実験所における採集に役立てる。また，研修議題におけるメダカの系統による繁殖特性や南極の生物とそれらの特性の話は興味深い。なお，今回は向島臨海が機関誌編集委員になっていたが，無事役割を終えることができた。

### 平成16年度第14回日本医療薬学会に出席して

湯元 良子

技術センター（医学部等部門）

#### 1. はじめに

本学会は、メインテーマが「薬剤師がつくる薬物治療—薬・薬・学の連携」であり、病院薬剤師、開局薬剤師、大学職員の三者が同じ目的である“患者のための適正な薬物治療”に向かってどう進めていくのかを議論し検討し認識を深めることを目的に開催された。

## 2. 期間・場所

期間：平成16年10月16日～17日

場所：幕張メッセ国際会議場

## 3. 参加者

病院、保険薬局および薬系大学関係者 約4,000人

## 4. 研修内容

教育講演2演題、特別講演2演題、招待講演1演題、シンポジウム5セッション、ランチョンセミナー12演題、ポスターセッション690演題

- 1) 疾病治療への薬剤師のかかわり：高血圧症、糖尿病、骨粗鬆症及び悪性腫瘍の治療、感染予防など、病院、開局における薬剤師の治療への関わりを検討しました。
- 2) 最新研究情報の現状と適用：PK/PD、代謝（CYP）など薬物動態の最新研究とその臨床への活かし方を検討します。また、治験への薬剤師のかかわり方について検討しました。
- 3) 情報を集め、評価し、活かしていく：IT化の流れ、標準治療のガイドラインの作成、e-添付文書の利用など、情報の収集、共有も様変わりし、薬-薬連携、共有の条件も一部でつくられつつあります。治療に利用していくための課題を検討しました。
- 4) 学生の研修教育、薬剤師の質的向上のための教育：臨床現場での学生教育の内容や方法、教育者の育成、薬剤師の教育など教育問題の具体的な課題を、薬剤師、大学教員、学生が共同で考え、議論が行われました。
- 5) 医療体制のなかでの薬剤師の役割：保険と薬物治療、ジェネリック時代の薬剤師の役割及び病院・薬局マネジメントをテーマ

に、大きな視点から薬剤師の貢献を考えました。

## 5. まとめと感想

本年は薬学6年生のための法改正が国会で可決され、平成18年より新たな学生による薬学教育、薬剤師教育が開始されることが決定した年である。本学会に参加し、広島大学技術センター職員として、適正な薬物治療に貢献するために、何をしていくべきかを見極め、これからの医療薬学の方向性、薬剤師活動のあり方を考える上で、非常に有用であった。

一般演題はポスターセッションであったが、座長を設けた示説討論が活発におこなわれた。

## 玉掛技能講習を受講して

積山 嘉昌

技術センター（生物圏科学研究科部門）

### 1. はじめに

附属瀬戸内圏フィールド科学教育センターでは、飼料運搬にクレーン作業、玉掛作業を必要とする。労働安全衛生法では、制限荷重が1t以上の揚貨装置又はつり上げ荷重が1t以上のクレーン、移動式クレーン若しくはデリックの玉掛けの業務には玉掛技能講習を修了した者でないと作業することが出来ない。したがって玉掛技能資格が必要となる。

### 2. 期間・場所

期間：平成16年10月26日～28日

場所：広島クレーン学校 広島校

### 3. 参加者等

30人

### 4. 研修内容

- 1) クレーン等に関する知識
- 2) クレーン等の玉掛けに必要な力学に関する知識
- 3) 玉掛用具の選定及び取扱い
- 4) 玉掛けの方法及び合図の方法
- 5) 玉掛実技の方法

## 5. 感想

最初は簡単に思っていました。力学や目測等大変頭を使うものだと思います。また、クレーン作業は危険を伴うので、習った事をこれからの仕事に活かしていきたいと思えます。

### 平成16年度主任者部会年次大会(第45回放射線管理研修会)に出席して

辻村 智隆

技術センター(医学部等部門)

#### 1. はじめに

本大会は、放射線取扱主任者部会が開催するもので、部会員の情報収集や交換の場として、例年、主任者部会年次大会として各地で開催されている。今回は岩手県民会館で開催され、大会での講演やシンポジウム、ポスター発表、分科会活動報告及び交流会での懇談があった。放射線安全管理の諸問題について、広い立場から論議し、その具体的対応策について研修することを目的に開催された。また、平成16年6月に放射線障害防止法の改正が国会で可決され、平成17年6月までに政省令が出され、放射線障害防止法の大幅改正が行われる。その改正内容の把握、平成17年1月に広島で主任者部会年次大会が開催されるため視察も兼ねて参加した。

#### 2. 期間・場所

期間：平成16年11月4日～5日

場所：岩手県民会館

#### 3. 参加者

全国の放射線取扱主任者及び放射線安全管理実務担当者が約500人。広島大学からは、工学部・大学院工学研究科の静間清 教授、自然科学研究支援開発センターの中島覚 助教授、稲田晋宣 助手、大学病院の谷口金吾 副技師長、技術センター(医学部 RI 研究共同施設)の辻村智隆 技術専門職員の5名が参加した。

#### 4. 研修内容

1日目(11月4日)

「放射線安全行政について」(特に今回の法令改正について)文部科学省原子力安全課放射線規制室長 小原薫 氏、シンポジウム「放射線取扱主任者のあり方」、分科会活動(教育訓練問題検討分科会、RI 廃棄物分科会、放射線計測分科会)、「最先端医療における核医学検査の意義と展望」岩手医科大学医学部長 小川彰 氏

2日目(11月5日)

分科会活動(PET 施設管理研究会、立入検査分科会、選任主任者分科会)、「極低放射能ニュートリノ検出器による素粒子・地球太陽の謎の究明」東北大学 鈴木厚人 氏、年次大会アピール採択、閉会

#### 5. まとめと感想

放射線障害防止法の大幅改正によって、放射線・放射性同位元素の利用形態が変わる。これによって放射線管理の形態も変わる。そのため放射線取扱主任者及び放射線安全管理実務担当者は、最大限に放射線・放射性同位元素等を研究利用する上で、どう公共の安全を担保するか、どう安全管理できるか、考えさせられ、更なる放射線安全管理を再認識した。

本大会の隅々まで拝見し、平成17年の広島開催の折、応用できるものもかなりあった。新たな企画も浮かび、収穫を得た。

### 第22回大学等環境安全協議会総会・研修会、第6回実務者連絡会に出席して

坂下 英樹

技術センター(工学部等部門)

#### 1. はじめに

大学等における環境安全管理の方法、化学物質等の管理の方法、及び有害な廃棄物の処理技術に関する研修と、それらに関する諸情報の交換を行うこと。

#### 2. 期間・場所

期間：平成16年11月9日～10日

場所：京都大学 百周年時計台記念館 国際交流ホール

### 3. 参加者等

環境安全管理、化学物質等の管理、廃棄物の処理に携わる大学等の教職員、及び関係企業から、計約210名。広島大学からは他に中央廃液処理施設（現環境安全センター）の教員3名。

### 4. 研修内容

- 「法人化後の環境安全施設と労働安全衛生について」アンケート結果：法人化、監督官庁からの指摘事項、環境関係の処理施設運営形態の変化、労働安全体制、実験室などの安全対策、特定化学物質、作業環境測定について。
- 事例報告：安全衛生管理、処理施設運営形態、衛生管理者、衛生工学衛生管理者、作業主任者、有規則除外申請について各大学等より報告。
- ディスカッション：「労働安全衛生対応をどう進めるか」について
- 講演「有機溶剤による健康影響と労働安全衛生法」：大学における安全衛生管理、有機溶剤による健康影響の防止について。
- 講演「廃棄物と環境教育」：ゴミ問題の現状、解決へのアプローチ、環境教育の歴史と現状、環境問題解決への環境教育について。
- パネルディスカッション：「大学の労働安全対応組織と安全教育」について

### 5. まとめと感想

法人化後、環境安全施設の組織や業務が変更となり、労働安全衛生に対応する組織となったり、廃棄物処理が外部委託となった大学が見られた。広島大学を含めた多くの大学は安全衛生管理に取り組んでいる途上であり、今後の取組みが重要であると感じた。

## 平成16年度放射性同位元素等取扱施設安全管理担当教職員研修に参加して

寺元 浩昭

技術センター（理学部等部門）

### 1. 目的

大学等における放射性同位元素の利用範囲の拡大や利用形態の多様化に伴い、放射線安全管理の徹底を図ることが重要になってきているため、実習を含めた最新の知識と情報を得て、安全管理の日常業務に生かすことを目的とし、研修会に参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成16年11月10日～11日

場所：京都大学放射性同位元素総合センター（教育訓練棟）

### 3. 参加者等

全国各大学より教職員82名参加

### 4. 研修内容

講義Ⅰ「改正法令に対する大学放射線施設の対応と対策」名古屋大学アイソトープ総合センター長 西澤邦秀氏

講義Ⅱ「放射線障害防止法及び電離放射線障害防止規則における測定の合理化」大阪大学ラジオアイソトープ総合センター教授 斎藤直氏

講演Ⅰ「危機管理－事故と人の問題－」日本農薬株式会社 環境安全部長 内田又左衛門氏

講演Ⅱ「放射線障害防止法の改正－進捗状況と今後－」文部科学省 科学技術・学術政策局原子力安全課 茶山秀一氏

パネル討論「大学における放射線安全管理の現状と改善－異常事態に対する対応－」座長 東京大学アイソトープ総合センター長 巻出義紘氏

実習Ⅰ「空气中放射能濃度の測定と内部被ばく評価」

実習Ⅱ「法令改正に伴う遮へい・濃度計算の方法」

## 5. まとめと感想

放射線障害防止法の改正に伴う種々の対応の変化について多くのことを知ることができた。また、全国各地の大学放射線施設の管理者が集まり、安全管理に関する各大学の現状や様々な問題点などについて聞くことができた。多くの方と意見を交換し、話し合うことができたことは、一層の安全管理の徹底に向け、大変有意義なものになった。

## 第22回献体実務担当者研修会、第2回解剖・組織学研究会研修会

中谷 宣弘

技術センター（医学部等部門）

### 1. はじめに

年に一度、献体実務担当者が一同に会したシンポジウムが開催されている。この会に参加して、全国での篤志献体の会の実情や大学での対応、コスト面等の講演を聴いた。また、これに付随する形で献体処置に従事する技術員の研修会が行われた。これは実際の現場で働く技術員ばかりの研修会なので、現場の生の声を反映した創意工夫や、抱えている問題点が挙げられ、大変参考になる研修会である。

### 2. 期間・場所

期間：平成16年11月26日～28日

場所：聖マリアンナ医科大学（神奈川）、鶴見医科大学（神奈川）

### 3. 参加者等

シンポジウム：献体実務担当者（全国の大学の解剖学講座教員、技術員 人数不明）、研修会：献体処置に従事する技術員（約40名）

### 4. 研修内容

ホルムアルデヒド濃度低減の方法および対策、クリーンシステム見学、遺体中のホルマリン低減法、骨格標本にまつわる話：鶴見大歯学部第2解剖学講師 小寺春人、古い手法の見直し（ゴルジ法）：元鶴見大学歯学部解剖学技術員 本松清行、

人は魂が抜けると体重が10kg減る???：鶴見大学歯学部第1解剖学講師 下田信治、鶴見大学の献体状況（PR用ビデオ上映）：鶴見大学歯学部第1解剖学教授 川崎堅三

## 5. まとめと感想

献体処置業務は特殊であり、感染等の危険も伴う作業であるが、全国の大学からそれに携わる技術員が集まり、その実情を学び、情報交換を行った。作業の特殊性に伴う様々な工夫も紹介され、大変参考になった。

## 第2回解剖・組織技術研究会秋期研修会に出席して

石原 博史

技術センター（医学部等部門）

### 1. 目的

近年、化学物質過敏症（ホルマリン）対策が話題となっているところであり、献体処理を行う技術員にとっても、解剖を行う教員、学生にとっても環境改善が望まれるところである。

### 2. 期間・場所

期間：平成16年11月27日～28日

場所：鶴見大学歯学部（神奈川県横浜市鶴見区）

### 3. 講習内容

遺体中のホルマリン低減法、骨格標本にまつわる話し、古い仕法の見直し（ゴルジ法）、人は魂が抜けると体重が10kg減る?!、鶴見大学の献体状況、1)ホルムアルデヒド発生源での処理、2)室内に拡散したホルムアルデヒドの処理、3)廃液の処理、4)御遺体を包んでいる布の取り扱い、5)換気との関係、6)温度、湿度の関係によるホルムアルデヒド室内濃度の変化

### 4. 感想

今回の研修ではおもに化学汚染について有意義な研修会となった。主にホルマリン対策について活発な意見が数多く出た。幹事会では、現会員の確認、会計の監査、来年度にむけての企画を確認した。

## 筋・骨格系の痛みの神経機構に関する国際ワークショップに参加して

柿村 順一

技術センター（医学部等部門）

### 1. はじめに

痛みの神経機構の理解は皮膚の痛みを中心として大きく進歩しているが、関節や筋の痛みについては研究も少なく、遅れている状況である。本ワークショップは関節・筋の痛みおよび疼痛の神経機構一般について、これまでの研究成果を発表・討論し、次のステップを探る場として設けられた。

筆者は病態探求医科学講座神経生理学（緒方研究室）で日常業務（研究補助）を行っている。本ワークショップには、得られた知見の発表および新たな知識の獲得を目的とし、参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成16年12月4日～5日

場所：名古屋大学野依記念学術交流館（名古屋市千種区）

### 3. 参加者

疼痛領域の研究者、学生等

### 4. 研修内容

シンポジウム（18題）、ポスター演題（39題）で構成されていた。筋痛、痛覚過敏、鎮痛、痛みの修飾に関するセッションを聴講した。また、ポスター演題にエントリーし、ポスター発表およびディスカッションを行った。

### 5. まとめと感想

痛み領域に特化したワークショップであったため、多くの専門の研究者の話を直接聞くことができ、刺激を受けた。ポスター発表では情報交換のみならず、新たな知識も得ることができ、今後の業務の参考とすることができた。また、外国からの参加者と話す機会を得ることができ、英会話のレベルアップの必要性を感じた。

## 平成16年度放射線安全管理講習会に参加して

寺元 浩昭

技術センター（理学部等部門）

### 1. 目的

放射性同位元素の利用範囲の拡大や利用形態の多様化に伴い、放射線安全管理の徹底を図ることが重要になってきており、また、平成16年6月に公布された改正放射線障害防止法への対応について、最新の情報を得ることを目的とし、参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成16年12月11日

場所：KKR 広島 安芸

### 3. 参加者等

100名以上。技術センターより他に、医学部等部門の辻村智隆 技術専門職員、原爆放射線医科学研究所部門の菅慎治 技術主任、理学部等部門の木庭亮二 技術員が参加。

### 4. 研修内容

講演Ⅰ「最近の放射線安全行政の動向について」文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室担当官

講演Ⅱ「改正放射線障害防止法の最新の状況について」文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室担当官

講演Ⅲ「立入検査の実施状況を踏まえた安全管理の徹底と実際」文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室担当官

講演Ⅳ「法令改正に向けた事業所における今後の対応について」(財)原子力安全技術センター 放射線安全部

### 5. まとめと感想

改正放射線障害防止法の施行に向けた最新の検討状況についての情報を得ることができた。また、最近の安全管理上の問題点等も挙げられ、一層の徹底を再認識させられた。法改正後の実務面での対応についても、いくつか具体的なものが示され、参考になったと思う。

## 平成16年度放射線安全管理講習会に参加して

木庭 亮二

技術センター（理学部等部門）

### 1. 目的

平成16年6月に公布された改正放射線障害防止法では、BSSの取り入れによる定義数量の変更や管理区域外でのRIの使用許可といった以前の法令に無かった項目があり、自然科学研究支援開発センターとしても対応が必要なため講習に参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成16年12月11日

場所：KKR 広島 安芸

### 3. 参加者等

100名以上。広島大学技術センターより他に、辻村智隆 技術専門職員（医学部等部門）、菅慎治 技術主任（原爆放射線医科学研究所部門）、寺元浩昭 技術員（理学部等部門）が参加。

### 4. 研修内容

講演Ⅰ「最近の放射線安全行政の動向について」文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室担当官

講演Ⅱ「改正放射線障害防止法の最新の状況について」文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室担当官

講演Ⅲ「立入検査の実施状況を踏まえた安全管理の徹底と実際」文部科学省科学技術・学術政策局原子力安全課放射線規制室担当官

講演Ⅳ「法令改正に向けた事業所における今後の対応について」（財）原子力安全技術センター 放射線安全部

### 5. まとめと感想

放射線障害防止法の平成17年度の改正に向けた新たな情報を得ることが出来た。また、各事業所における放射線管理の注意点や問題点が挙げられ、管理上の問題点の再認識ができた。ただし、法令の詳細については検討事項も含むため来年度での確認を要するものもかなりあった。

## クレーン特別教育を受講して

積山 嘉昌

技術センター（生物圏科学研究科部門）

### 1. はじめに

附属瀬戸内圏フィールド科学教育センターでは、飼料運搬にクレーン作業を必要とする。労働安全衛生法では、つり上げ荷重が5t未満のクレーンおよびつり上げ荷重が5t以上の誇線テルハの運転。玉掛けの業務には玉掛け技能講習を修了した者でないと作業することが出来ない。したがってクレーン運転業務資格が必要となる。

### 2. 期間・場所

期間：平成17年1月18日～19日

場所：林業ビル 8F 第1会議室

### 3. 参加者等

50人

### 4. 研修内容

1) クレーン等に関する知識

2) クレーン等の取り扱い

3) 原動機および電気に関する知識

4) クレーンの運転のために必要な力学に関する知識

5) 合図の方法

6) クレーンの運転関係法令

### 5. 感想

電気や力学とたいへん頭を使うものだった。また常に危険を伴う事なので、習った事をこれからの仕事に活かしていきたいと思う。

## 原子力施設における「核物質防護規定の強化」、 「クリアランス制度の整備」および「廃止措置規制の明確化」に関する説明会に参加して

木庭 亮二

技術センター（理学部等部門）

### 1. 目的

上記の説明会で少量核燃料物質の取扱いやクリアランスレベルについての内容があるとの情報があり、当分野としても直接取り扱う機会は無

いが、学内よりの問い合わせが過去に数度あったため必要であろうと判断し、有休を取り参加した。

## 2. 期間・場所

期間：平成17年1月19日

場所：広島合同庁舎 2号館2階 第1会議室

## 3. 参加者等

20名程度

## 4. 研修内容

原子力施設における「核物質防護規制の強化」、「クリアランス制度の整備」及び「廃止措置の明確化」について（経済産業省 原子力安全・保安院 原子力安全調整官）

「試験研究用研究炉施設等の安全規制のあり方について」（文部科学省 科学技術・学術政策局 原子力安全課 原子力規制室長）

## 5. まとめと感想

核燃料物質の今後の取扱いについての問題点を認識できた。また、クリアランス制度の整備については、放射線障害防止法とつながるところもあり、今後障害防止法でどのように進んでいくのか参考になった。時間的な制約から十分な質問は出来なかったが、また機会があれば参加する予定である。

## 特定化学物質作業主任者講習を受講して

窪田 浩和・竹田 重寿

技術センター（生物圏科学研究科部門）

### 1. はじめに

附属瀬戸内圏フィールド科学教育センターでは、人工授精器具、受精卵移植器具、注射器などガス滅菌する。ガス滅菌に使用するガスは、エチレンオキシドで特定化学物質に指定されている。このガスを取扱うには、特定化学物質作業主任者の資格が必要となる。

### 2. 期間・場所

期間：平成17年2月24日～25日

場所：林業ビル 8F 第1会議室

### 3. 参加者等

100人

## 4. 研修内容

- 1) 特定化学物質等による障害とその予防措置
- 2) 作業環境の改善方法
- 3) 労働衛生保護具
- 4) 関係法令

## 5. 感想

職場の中で取扱われる有害な化学物質から労働者の健康を守る事を学んだ。特に労働者に健康障害を及ぼす恐れのある特定化学物質は、ガン発生や体に悪影響を及ぼすので特に注意が必要であることが分かった。

## 平成16年度大阪大学総合技術研究会に出席して

菅 慎治

技術センター（原爆放射線医科学研究所部門）

### 1. はじめに

技術者の交流および技術向上を図る。

### 2. 期間・場所

期間：平成17年3月3日～4日

場所：大阪大学吹田キャンパス

### 3. 研修内容

技術者が、日常業務で携わっている実験装置の開発、維持管理から改善、改良などの話題に及ぶ広範囲な技術的研究支援活動について発表や意見交換。

### 4. まとめと感想

他機関の技術者と専門的な技術や、情報の交換をすることができ今後の技術向上や、業務の参考になった。また、多彩な専門分野の技術者から技術や、情報を見聞きでき勉強になった。

## 平成16年度大阪大学総合技術研究会に出席して

浅田 竜也・村中 正志・南 治志・佐藤 勇・  
藤高 仁  
技術センター（理学部等部門）

### 1. はじめに

この技術研究会は、技術職員が企画立案し運営を行っていて、大学共同利用機関、各大学及び高等専門学校の技術者が日常業務で携わっている実験装置の開発・管理・改善・改良などの広範囲な技術的研究活動について発表し、技術者の交流及び技術向上を図ることを目的としている。

また、平成18年度に広島大学で開催される機器・分析技術研究会とガラス工作技術研究会の視察もかねて出席した。

### 2. 期間・場所

期間：平成17年3月3日～4日

場所：大阪大学コンベンションセンターと周辺施設

### 3. 参加者等

広島大学から7名

参加人数647名

### 4. 研究会内容

講演：「IT 社会におけるこれからの大学」大阪  
大学総長 宮原秀夫

口頭発表：9つの技術研究会で139件

ポスター発表：9つの技術研究会で104件

見学会：大阪大学超高压電子顕微鏡センター  
（希望者のみ）、レーザーエネルギー学  
研究センター（希望者のみ）

情報交換会：各自業務におけるネットワーク作  
り及び機器・分析技術研究会とガ  
ラス工作技術研究会の情報収集

### 5. まとめ・感想

本研究会は技術職員が日ごろの業務経験に基づき、さまざまな発表を行うため各自の業務に密着した講演・口頭発表などを興味深く聞くことができた。特に工作技術研究会、ガラス工作技術研究会、分析・評価技術研究会では多くのヒントを

得ることができ、今後の業務に活かせる内容であった。

また、研究会の運営において各自の役割が明確でスムーズな運営を行っており機器の操作も問題なく行われていたため事前に準備をかなり行っていたものと思われる。今後広島大学にて開催予定の各研究会への良き参考となった。

## 平成16年度山口大学工学部との技術職員合同研修に出席して

京泉 敬太・田邊 邦昭・山本 博・藤枝 洋二・  
下川 久義・土橋 誠  
技術センター（工学部等部門）

### 1. はじめに

平成16年4月より国立大学が国立大学法人となり、それに伴い広島大学も大幅な組織改革が実施されました。そこで今回、法人化後の技術センターの果たすべき使命・業務・管理及び運営というテーマのもとに、情報交換を行い、今後の業務遂行に活かすべく技術職員合同研修会に参加した。

### 2. 期間・場所

期間：平成17年3月7日～8日

場所：山口大学工学部

### 3. 参加者

広島大学工学部等部門7名

山口大学工学部技術部

技術長1名・技術班長4名

### 4. 研修内容

1日目 3月7日

- 1) 山口大学工学部技術部の概要説明
- 2) 山口大学工学部技術部各班の業務内容紹介
- 3) 広島大学技術センターの概要説明
- 4) 広島大学安全衛生管理の概要説明
- 5) 自己紹介と各自業務概要説明
- 6) 質疑応答

2日目

7) 山口大学工学部施設見学

5. まとめ

今回、山口大学工学部の技術職員と情報交換する機会をいただきまして、今後の業務に参考となる情報を得ることができました。技術部では、講座、学科、専攻、工学部附属教育研究施設、各種委員会、事務部並びに各部局から技術支援依頼を受け、教育・研究に関する技術支援業務を行う方式を採用しており、また、月に1回は技術職員全員参加の技術部会議を行い、お互いのコミュニケーションを欠かさないようにしているそうです。地理的に会う機会の少ない広島大学技術センターでもコミュニケーションを図り、情報の伝達、技術の取得ができるようになればと思っております。

**平成16年度山口大学工学部との技術職員合同研修会に出席して**

清水 高

技術センター（工学部等部門）

1. はじめに

平成16年4月より国立大学が国立大学法人となり、それに伴い広島大学も大幅な組織改革が実施されました。教室系技術職員は、広島大学技術センター所属の技術職員となり、「広島大学に対していかに技術貢献を深めていくか」またそのための「組織づくり・人事管理・業務管理・スキルアップ」のあり方を再検討する必要があると考え、法人化後の技術センター（山口大学工学部は技術部）の「人事管理と業務管理」というテーマのもとに情報交換を行い、他大学技術部の業務への取り組み・技術貢献のあり方を取得し、今後の業務遂行に活かすべく、技術職員合同研修会に参加しました。

2. 期間・場所

期間：平成17年3月7日～8日

場所：山口大学工学部

3. 参加者

広島大学技術センター工学部等部門7名

山口大学工学部技術部 技術長（技術専門員）1名、技術班長（技術専門員又は技術専門職員）4名

4. 研修内容

- 1) 山口大学工学部技術部の概要
- 2) 山口大学工学部技術部各班の業務内容紹介
- 3) 広島大学技術センターの概要説明
- 4) 広島大学安全衛生管理の概要説明
- 5) 自己紹介と各自業務概要説明（広島大学技術センター職員）
- 6) 質疑応答
- 7) 施設見学

5. まとめ

今回、法人化後初めて他大学の技術系職員と情報交換する機会をいただきまして、業務遂行に大いに参考となる情報を得ることができました。以下に要点をまとめます。1) 山口大学工学部は、組織を確立し、規則・内規を定めている。2) 事務部と連携を強め広く前向きに業務をおこなっている。3) 技術部内会議を毎月定例で実施し、コミュニケーションを深めている。

**第5回高エネルギー加速器研究機構技術職員シンポジウムに出席して**

向井 一夫

技術センター（工学部等部門）

辻村 智隆

技術センター（医学部等部門）

1. はじめに

今年、第5回目となる高エネルギー加速器研究機構(KEK)技術部連絡会議が主催する「技術職員シンポジウム」は、毎年多くの大学、高等専門学校、大学共同利用機関等の技術職員が参加して活発な意見交換がおこなわれている。

昨年は、“研修、技術交流、人事交流の実施状況・課題等について”の報告・意見交換がされ、

今回平成16年度は、“各機関の法人化後の状況についての報告”を主なテーマとして実施されることになり、技術センターに全学技術職員が集約化されるという全国的にも数少ない組織化に踏み切った広島大学も、その現状報告、経緯、課題等を報告すべきであり、又、他機関も注目している一元化について発表をおこなうため参加した。

## 2. 期間・場所

期間：平成17年3月17日～18日

場所：大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構（茨城県つくば市）

## 3. 参加者等

16大学（27名）、1高等専門学校（3名）、6研究機構等（37名）、合計23機関（67名）。

広島大学技術センターからは、向井一夫（工学部等部門）と辻村智隆（医学部等部門）の2名が参加した。

## 4. 研修内容

国立大学、国立高等専門学校、大学共同利用機関等が法人化され、技術職員に関しても組織・運営体制、業務内容の見直し、効率化、技術の向上策等についての種々の改革が実行された。

この時期に、それぞれの参考に資するため、各機関の法人化後の現状について、状況発表・情報交換・意見交換をおこなった。

## 5. まとめと感想

各機関から発表された現状についての内容は、それぞれの部署で様々であり、技術部組織化の難しさ、課題等が山積みの感じを受けた。各機関によって教員・事務職員・技術職員のそれぞれの関係に開きがあり、技術部に対する評価や取り組みにも開きが見受けられた。現在の与えられた専門業務だけでなく、つぶしの効く技術も進んで身につけることや、昼休みに教員、研究者の部屋に向向いて日常会話の中で依頼者側が何を求めているか等、自分で営業活動等もおこなう努力も必要になってくる時代に突入したと実感した。

法人化1年のこの時期に、多くの機関の現状や

経緯を聞き、他機関の技術部組織化、法人化対策と比較してみると、我々の技術センターはセンター長、事務職員、技術職員が連携して1年間やってきたこと自体が大いに評価できると思った。2年目になる17年度は、多く残された検討課題を、話し合い、ある時は強いリーダーシップによって、できることから解決して前に動いてみて、チェックし、やり直し、組織化して良かったと思うように自分たちで努力したい。

## 広島大学・首都師範大学 学術・技術交流会 2005 北京（広島大学フェア 2005 in 北京）に出席して

阿武 久美子

技術センター（医学部等部門）

藤原 雅志

技術センター（理学部等部門）

勇木 義則

技術センター（情報メディア教育研究センター部門）

### 1. はじめに

技術員は独法化後、技術・研究等の業務成果について学内外への積極的な発信を求められている。今回の広島大学フェアでは本学の情報発信姿勢を学ばせていただき、同時に現在、広島大学留学生数でトップを占める中国の大学教育、企業姿勢等を学ばせていただくことを目的とした。

### 2. 期間・場所

期間：平成17年3月25日～26日

場所：首都師範大学・国際文化学院内（中華人民共和国・北京市）

### 3. 参加者等

牟田学長、興副学長、大学院各研究科長、他

### 4. 主な研修内容

○広島大学が中国、北京における大学間学術・技術交流の先駆けとなるよう広島大学学長、首都師範大学学長より訓辞。

○国立大学の独立行政法人化を推進された日本科学技術振興財団会長（元文部大臣・元東

京大学総長) 有馬朗人 氏の講演会.

○広島大学大学院の各研究科長より研究科の内容と特色についての説明.

○広島大学における21世紀COEプログラムの紹介.

○広島大学, 首都師範大学, 日本企業, 中国企業による研究技術成果紹介

○広島大学への留学についての相談.

#### 5. まとめと感想

広島大学で行われている研究を網羅した発表は非常に有益であった. 特にCOE研究については分かり易い説明もあり非常に有益であった. 講演中, 産学連携の成果のみに偏り, 基礎研究を疎かにするべきでは無いとの有馬氏の発言は興味深かった.

中国では政情からか組織に於いてトップダウンが行き渡っているようだった. 学生達の日本への興味は強く, より多くの情報を発信することで良い人材が集まると思われた. 日本人学生との交流を希望する向きもあった. 但し中国には春休みが無く授業期間であったため, 比較的低学年の文系の学部生が多く, 戦略的な広報活動の必要性を感じた.

### 第3回解剖・組織学研究会研修会

中谷 宣弘

技術センター (医学部等部門)

#### 1. はじめに

平成16年11月に同様の研修会が行われたが, 今回はそれに続く第3回目の研修会であった. 3月29日から富山医科薬科大学にて第110回日本解剖学会が行われたが, それに付随する形で学会前日に開催された.

#### 2. 期間・場所

期間: 平成17年3月28日

場所: 富山医科薬科大学

#### 3. 参加者等

献体処置に従事する各大学の技術員 (約40

名)

#### 4. 研修内容

献体業務と施設改修工事の紹介 —愛知医科大学— (愛知医科大学解剖学第1講座 有村和人氏), 施設紹介とアクリル版による標本作製 (広島大学技術センター医学部等部門 石原博史氏), 独法化後の大学における衛生管理者の役割 (徳島大学先端医療研究資源・技術支援センター岡村住人氏), 凍結切断両面レプリカ免疫電顕法を用いた小脳グリア細胞の標識 (岡崎生理学研究所 技術課 前橋寛氏), 解剖組織技術士功労賞 (平成15年度) 受賞記念講演 私の硬組織の形態解析の歩み (1級受賞者 鶴見大学歯学部解剖学第1講座 千葉敏江氏), 生体内凍結法による“生きた動物臓器”の形態学的解析法 (山梨大学医学部解剖学講座第1教室 大野伸一 教授), 工夫・質問コーナー

#### 5. まとめと感想

昨年11月に引き続き参加させて頂いた. 今回は独法化後の衛生管理や, 日常使用する有害な薬剤 (ホルマリン等) に替わる新薬の紹介などを中心に情報交換がなされた. また, 私の提案で各大学での技術員の実情を問うアンケートを作成, 配布をした. 後日回収し, 結果をまとめたものを発表しようと考えている.

### 第110回日本解剖学会・全国学術集会

中谷 宣弘

技術センター (医学部等部門)

#### 1. はじめに

現在, 献体処置業務と併行して片岡教授 (広大・医・第二解剖) の指導の下, ラット胃粘膜における薬剤 (ステロイドホルモン) 投与の影響について研究を行っている.

今回, 第110回日本解剖学会・全国学術集会の場にてこれまでの研究成果についての発表を行った.

#### 2. 期間・場所

期間：平成17年3月29日～30日

場所：富山医科薬科大学

### 3. 参加者等

日本解剖学会会員，解剖学講座大学院生，医学部学部生等

### 4. 研修内容

3月29日～31日に開催された学会において，3月29日に「哺乳期ラットの胃粘膜におけるヒドロコルチゾン投与の影響」というタイトルでオーラル形式にて発表を行った。

### 5. まとめと感想

自分にとって初めての学会発表だったのでいぶん前から準備を進めてきた。講座の先生方のアドバイスもあり，当日は制限時間内でうまくまとめられたと思う。初めての発表が全国規模の大きなものであったので，とても貴重な経験が出来，今後の自信にも繋がった。